

3-3. 避難所生活

1. 避難所の生活環境と運営

01. 前回噴火の経験を知らない避難者の中には、着の身着のまま避難してきた人々もいた。

自主避難勧告や避難指示を受けた町民の対応や判断もまちまちだった。昭和新山の時の噴火や77年噴火を経験した町民の中には「有珠山噴火は30年周期だ。地震はまもなく止むだろう。噴火はまだ早い」と判断する者、「噴火しても本町地区は大丈夫だ。仮に避難しても2～3日から1週間で家に戻れるだろう」などと考えた者も少なからずいた。だから電機のブレーカーを切らずに避難した者、LPガスの元栓も閉めずに避難した者、衣料品や貴重品を持ち出さずに避難した者もかなりの人数に上った。このような町民は77年噴火の非難を経験しなかった本町地区の町民に多かったといわれている。[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.228～229]

02. 避難所においてはプライバシーが確保できず、避難者に大きなストレスとなった。

有珠山噴火による避難生活も約2週間になるが、火山活動は依然活発で、帰宅できる見通しはなく、避難住民の疲れた表情が色濃くなってきた。しかし、火山と生きてきたマチだけに「長期化は覚悟の上」と、長い共同生活を見据えて、お互いのプライバシー保持に工夫を凝らす姿もある。一方で避難住民同士交流を深め、広い空間での共同生活の方が連帯感が増す、との声も聞かれるなど、毎日の生活にそれぞれのリズムを見つけている。

夜中の足音がうるさい、たばこの煙が嫌、いびきに耐えられない - など、共同生活にありがちな生活リズムの違いが見掛けられる。その不満に少しでもこたえよう - と壮瞥町農村環境改善センターでは間仕切りが登場した。

[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.110]

03. 各避難所で自治会組織が結成され、避難所の運営が行われた。

壮瞥町滝之町地区から、久保内中学校体育館に避難した12自治会、221人が30日、「避難所自治会」を設立した。自分たちで生活を改善しながら、長期の避難生活に備えるのが狙い。(中略)

同体育館で200人を超える人たちが共同生活を行う中、生活形態の違いからさまざまな不安が出てくる可能性があり、最初から規則をつくって少しでも生活しやすくすることにした。30日に設立準備会が開かれ、食事の順番や湯飲み洗いの当番制、広報誌の発行などの規則を決めた。

自治会としては手始めに、町に対してテレビやトイレの設置、本などを要望、さらに、住民の意見を取りまとめる。

[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.44]

04. 豊浦町に避難する虻田町民のうち約2,000人を長万部町、洞爺村の避難所へ移動させた。

豊浦町内に避難している虻田町民約3千人のうち、教育施設に避難する2千人余りが2日午後、洞爺村や長万部町など新たな避難所に移った。豊浦町内の避難所が収容能力を超えているための措置。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.61]

2. 避難所間の格差

01. 避難施設により、避難所生活には格差が生じた。

有珠山噴火で2日からの新たな避難施設の一つは、2年前に破産した「エイベックス」の旧社員寮で、バブルの遺産の思わぬ有効利用となった。しかし寮とはいえ個室で設備充実。虻田町の担当者は他の町民との“バランス”に苦心、「地下に大型浴場があるので、個室のシャワーは使えないようにする」と話している。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.67]

救援物資は非常に多数寄せられたが、とくに伊達市への物資は多かったようだ。それは伊達市に災害対策本部が置かれ市役所の屋上から噴火の様子が連日報道されたため、伊達市が被害を当事者であると誤解された面も少なからずあったのではないかという。その点伊達市関係者は虻田町に気の毒なことをしたとの思いがあるのが感ぜられた。[高倉嗣昌「有珠山噴火災害に伴う避難住民受け入れ状況に関する調査報告」『開発論集 第72号』北海学園大学開発研究所(2003/6),p.25]

02. 避難所間の情報が広く伝わった背景には、携帯電話の普及があった。

避難住民はお互に携帯電話で連絡を取り合いより居住条件のいい所に移るケースが多く、中には全く届け出ないで居なくなってしまう人も少なからず見られ、自治組織などをつくって把握に勉めたが、容易ではなかった。[高倉嗣昌「有珠山噴火災害に伴う避難住民受け入れ状況に関する調査報告」『開発論集 第72号』北海学園大学開発研究所(2003/6),p.18]

3. 一時帰宅

01. 4月8日より、壮瞥温泉・昭和新山地区などにおいて、日中1時間の一時帰宅が実施された。

有珠山(732メートル)が活発な活動を続ける中、関係省庁や地元自治体でつくる現地災害対策本部は8日午後、立ち入り規制を一部解除し、壮瞥町の避難住民60人の一時帰宅が実現した。7日に伊達市の農家が避難指示地域内の農業施設に立ち入りを認められたのに続く措置。9日午前には火口により近い壮瞥町・洞爺湖温泉地区などの住民約100人が一

時帰宅するほか、両側の虻田町も月浦地区の住民約 110 人を午後にも一時帰宅させる方向で準備している。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.98]

02. 一時帰宅実施にあたり、4月9日、「短時間帰宅等の要望への基本的対応方針」が決められた。

伊達市、虻田町、壮瞥町において避難住民の要望を踏まえて実施される短時間帰宅等への対応について、現地合同対策本部は平成12年4月9日に「短時間帰宅等の要望への基本的対応方針」により対応することとした。

なお、一時帰宅などを実施することに伴い、伊達市、虻田町、壮瞥町の市町長は、現地合同対策本部及び火山専門家の意見を参考にして、避難指示地域内を危険度に応じて3つの区域(カテゴリー)に区分した。

短時間帰宅等の要望への基本的対応方針

平成12年4月9日

現地合同本部

今後各市町において避難住民の要望を踏まえて実施される短時間帰宅等への現地対策本部関係各機関からの安全措置に係る支援については、それぞれ危険の程度を個別に判断しつつ、下記のような基本的方針を踏まえて順次対応することとしたい。

記

1 危険度が高いと判断される地域についての要望(カテゴリー)

当該地域においては、安全の確保が困難であり、短時間帰宅等の実施は困難と判断される。

2 1に次ぐ危険度を有するが、厳重な安全措置を取るにより実施が可能であると判断される地域についての要望(カテゴリー)

当該地域においては、ヘリにより火山活動等を監視し、1時間程度の短時間かつ対象地域を限定し、万一の場合の避難体制を十分に確立した上で、慎重に短時間帰宅等の実施を検討する。

3 1, 2以外の地域についての要望(カテゴリー)

当該地域においては、それぞれの地区の実態に応じ、必要な連絡・避難体制を確保しながら、安全が確保される範囲内で可能なかぎりの一時帰宅措置等の実施支援を検討する。

避難指示区分

カテゴリーI(CI)：噴石が飛んでくる範囲

誰も立入りができない地域

カテゴリーII(CII)：噴石及び火砕流の範囲

ヘリ監視の下で、一時帰宅が可能な範囲で、天候に左右される

カテゴリ-III(CIII)：火砕流の範囲

へり監視が不要で、一時帰宅可能な地域

[『2000年有珠山噴火災害・復興記録』北海道(2003/3),p.88]

噴火から11日目を迎えた有珠山(732メートル)は10日午前も、複数の火口から断続的に噴煙を上げ、以前活発な活動を続けている。有珠山噴火非常災害現地対策本部は9日、避難住民の短時間帰宅にかかわる「基本的対応方針」を決めた。同方針に沿い、10日午前9時から新たに伊達市の上長和、若生地区と、壮瞥町の壮瞥温泉地区東側一部地域での7時間帰宅を実施した。9日午後に行われた虻田町月浦地区の一時間帰宅も継続実施された。比較的落ち着いた今の火山活動に変化がない限り各機関の厳重な安全体制の下、継続される。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.100]

短時間帰宅の「基本方針」は現在「避難指示」が出されている地区について(1)危険度が高い地域は安全が確保が難しく(2)危険度を有するが厳重な安全処置で実施可能と判断される地域は、1時間程度の短時間、かつ対象地域を限定する(3)それ以外の地域は安全が確保される範囲内で可能な限り実施する - の3段階に分けられている。

住民要望を受けた各自治体が一時判断した後、同本部で検討、有珠山の活動状況と有珠山保護が取れるかどうかなどを踏まえ、(1) - (3)のどれに当てはまるかが総合判断される。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.100]

03. 一時帰宅の帰宅時間が7時間に延長された。

活発な噴火活動を続ける有珠山は10日も、金比羅山西側や西山西ろくで数百メートルの噴煙を上げ、マグマ水蒸気爆発を断続的に繰り返した。この日、避難指示対象となっている伊達市の上長和と若生地区、壮瞥町壮瞥温泉地区の7時間限定の一時帰宅が初めて実施され、84世帯194人が自宅に戻った。伊達市対策本部は、有珠地区の一時帰宅も早ければ12日にも実施することを決め、申し込みの受け付けを11日から開始する。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.102]

伊達市上長和町と若生町、壮瞥町壮瞥温泉の避難指示地区で10日から、午前9時 - 午後4時までの一時帰宅が始まった。避難先から集まった住民らは家族そろって久しぶりに自宅に戻り、1日も早く日常生活を取り戻そうと約7時間、部屋の片付けや農作業に取り組んだ。[『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.105]

4. ペット問題と対策

01. 2000年有珠山噴火では、ペット対策が大きな問題となった。

4月1日付の北海道新聞によれば、避難区域でペットが置き去りにされている。と、一部のマスコミが報道したところ、日本動物福祉協会の本部や道支部に動物保護を求める要請が殺到したという。洞爺湖畔の月浦にも、動物愛護団体のメンバーが集まってペット

救出のシュプレヒコールの声をあげたこともあった。[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.435]

3月29日から30日にかけての住民避難のようすがテレビで放映されると「避難所に犬や猫の姿がない。置き去りにされたのではないか」という多数の問い合わせが、30日夕刻から道庁によせられた。[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.435]

02. 避難所に連れてきたペットによるトラブルがあった。

ペットを置いて来た人、連れて来た人・それぞれ別の対応をしなくてはならなかったからである。中には置いて来た人と連れて来た人との感情的対立が見られた所もあったらしい。[高倉嗣昌「有珠山噴火災害に伴う避難住民受け入れ状況に関する調査報告」『開発論集 第72号』北海学園大学開発研究所(2003/6),p.24]

03. 北海道獣医師会により「有珠山動物救護センター」が開設され、ペットの収容が行われた。

北海道獣医師会は有珠山噴火直後、いち早く「動物救護センター」の開設を決定、4月1日、2日の両日の間に諸準備を終え、4月3日からペットの預かりを開始した。初日は犬29頭、猫18頭、亀1匹、小鳥1羽の合計49頭羽を収容した。[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.436]

収容動物の感染症疾患対策としては、預かり時の診察・ワクチン接種・猫のウイルス検査・エキノコックス検査等を実施した。また、疾患の発生に対応するため、センター内に診療棟を併設し、疾患の検査・診断・治療に備えた。[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.437]

北海道庁は1日、避難所のペットを預かる「ペットシェルター」を伊達市で開設することを決めた。北海道獣医師会や日本動物愛護協会などと協力し、約1650平方メートルの土地を確保した。獣医やボランティアを派遣し、無料で面倒をみる。早ければ一両日中にスタートする。[『毎日新聞』(2000/4/2朝刊)]

避難住民のペット対策として北海道獣医師会は2日、伊達市舟岡町340に「有珠山動物救護センター」を開設した。避難住民が気に掛けていた愛犬、猫の一時保護がスタートし、飼い主らは「家族の一員」の安全確保に胸をなで下ろす一方、獣医らは診察や手当てに追われていた。

受け付けは午前9時から午後10時。道や一般ボランティアが協力しており、ペットを収容するための囲い塀造りや新たなプレハブも整備された。『有珠山 - 平成噴火とその記録 - 』室蘭民報社(2000/12),p.67]

04. 火山活動の変化に伴い、動物救護センターは拡大・統合された。

火山活動鎮静化に向かうとともに避難指示解除地域も次第に拡大されてきた状況をふまえ、第1救護センターを第2救護センターに吸収し統合した。[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.436-437]

05. 動物救護センターの運営には、北海道獣医師会や動物愛護団体等の協力があった。

センターの運営には北海道獣医師会胆振支部の内山副部長が現地責任者となり、地元胆振支部をはじめ北海道小動物獣医師会、札幌小動物獣医師会から初動期には10名前後、運営が軌道に乗り出してからは3～4名が駆けつけ、延918名(実人数181名)の協力を得ることができた。

長万部・豊浦地区については道南支部によって救護ボランティア団が結成され、4月5日から5月28日にかけて巡回診療や健康相談を打った。

一般ボランティアについては道の自然環境課を通して動物愛護団体などに依頼するとともに、マスコミによる協力の呼び掛けを行った。一方、動物福祉協会や獣医学部(科)を持つ大学や動物関係の専門学校にも派遣を要請した。

その結果、連日50名前後、多い日には69名の協力を得る事ができた。8月末のセンター閉鎖まで延4,544名(実人数655名)に達した。[『2000年有珠山噴火・その記録と教訓』北海道虻田町(2002/12),p.437-438]